

# JPNIC 活動報告

JPNIC Activity Report



## 2015年12月～2016年3月のJPNIC関連イベント一覧

12月

- 
- 4(金) | IPv6対応セミナー(名古屋、中部テレコミュニケーション株式会社 多目的会議室)
  - 8(火) | IETF報告会(94th横浜)(東京、エッサム神田ホール1号館)
  - 10(木) | IoTサミット In ジャパン(東京、東京ミッドタウン・ホール)
  - 11(金) | 第57回JPNIC臨時総会(東京、アーバンネット神田カンファレンス)
  - 18(金) | ISOC-JP講演会「サイバー事件概説」[後援](東京、アーバンネット神田カンファレンス)

1月

- 
- 28(木) | 第11回日本インターネットガバナンス会議(IGCJ)会合(東京、JPNIC会議室)

2月

- 
- 1(月)～5(金) | JPNIC技術セミナー(東京、JPNIC会議室)
  - 9(火) | RPKI勉強会、RPKIユーザーBoF(東京、JPNIC会議室)
  - 10(水) | 第111回JPNIC臨時理事会(東京、JPNIC会議室)
  - 16(火) | サーバ管理者向けIPv6対応セミナー in 恵比寿(東京、株式会社DMM.comラボ本社会議室)
  - 18(木)～19(金) | 第22回NORTHインターネット・シンポジウム(札幌、北海道大学)

3月

- 
- 3(木) | IAJapan「2016年IoTのデファクト・スタンダードの行方」[後援](東京、エムワイ貸会議室)
  - 3(木)～4(金) | Security Days 2016[後援](東京、JPタワーホール&カンファレンス(KITTE))
  - 11(金) | IPv6対応セミナー(福岡、九州通信ネットワーク株式会社社会議室)
  - 11(金) | Security Days 2016(大阪、ナレッジキャピタル・カンファレンスルーム(グランフロント大阪))
  - 16(水) | IoTネットワークプログラミングワークショップ(東京、東京大学)
  - 18(金) | 第58回JPNIC臨時総会(東京、アーバンネット神田カンファレンス)  
第112回JPNIC臨時理事会(東京、JPNIC会議室)

上記イベントのいくつかについては、次号63号にて報告いたします

## ICANNダブリン会議報告および第44回ICANN報告会開催報告

2015年10月18日(日)から22日(木)にアイルランドのダブリンで第54回ICANN会議が開催され、本会議の報告会を11月18日(水)にJPNICと一般財団法人インターネット協会 (IAJapan) の共催にて開催しました。本稿では、ダブリン会議の概要を中心に、報告会の様子も併せてご紹介します。

### ICANNダブリン会議報告

2015年10月18日(日)から22日(木)にかけて、アイルランド・ダブリンにて第54回ICANN会議が開催されました。今回のICANN会議のメインとなった話題は、引き続きIANA監督権限移管とICANNの説明責任強化でした。事前の予想とは異なり、米国商務省電気通信情報局 (NTIA) への提案提出準備は整わず、もう少し議論が続くことになりました。これらを中心に、ダブリン会議を振り返ります。

#### ◆ IANA監督権限移管とICANNの説明責任に関する、会期前の議論の経過

2015年6月にアルゼンチン・ブエノスアイレスで開催された第53回ICANN会議でも、IANA監督権限移管とICANNの説明責任強化は活発に議論が行われ、その結果としてNTIAに提出される案をまとめる最終段階の意見募集が、同7月末から9月初旬にかけてそれぞれ行われました。この意見募集の結果、IANA監督権限移管の方は大きな混乱もなく、意見がまとまりました。一方、ICANNの説明責任強化に関しては、まとまろうとしていた最終提案に対してICANN理事会が異議を唱えたことにより、ダブリン会議の場で意見収束を図る必要が出ていました。

7月の意見募集の段階に至るまで、CCWG<sup>\*1</sup>の検討が最も難しかったのが、理事会を優越する権限を持つことになる、新たなコミュニティ代表体の法的地位でした。CCWGでは、権限の定義に際して、理事会や法人としてのICANNが不適切な判断や業務遂行をした場合の是正を、ICANNが管轄されるカリフォルニア州の州法に基づいて実施できることが重要と考えており、これが可能となる法的地位をどのように実現できるかに関して、検討に時間を要したのです。最終的に、意見募集に掛けられた提案では「Sole Member」モデル(代表体が単一のICANNの「会員」として権限を行使するもの)というものが採用されました。しかしこれに対して、意見募集後の10月6日、このモデルに類するもの前例がなくICANNにとっても大きな構成変更であること、代表体の構成などが不透明であることなどを理由として、ICANN理事会がこれに異議を唱えました<sup>\*2</sup>。

これを機に、本件に関与しているさまざまなステークホルダーのコミュニティでは、事態の打開に向けた検討や他との折衝を進めましたが、いずれにしてもダブリン会議はNTIAに提出する提案を最終確認する場ではなく、今一度の意見調

整の場となりました。



● ICANNダブリン会議の様子

#### ◆ ダブリン会議における両提案の議論

ダブリン会議の会期中、IANA監督権限移管提案を取りまとめるICG (IANA Stewardship Transition Coordination Group) と、ICANNの説明責任強化に関する提案を取りまとめるCCWGは、それぞれ数回のワーキングセッションを持つとともに、コミュニティとの対話のための、エンゲージメントセッションを持ちました。

まずICGの方は、意見募集を終えて提案に関する議論は収束しているため、最終的な文言の詰めや、実装に向けた準備に検討が移っていました。2015年10月29日に最終的な提案が完成し、公開されました<sup>\*3</sup>。CCWGの方は、合同チェアが、さまざまなステークホルダーの会議に積極的に乗り込み、コミュニティの意見を聴取しました。このプロセスを通じて、いくつか取り得るモデルの中で、「Sole Designator」モデル(代表体が単一の「役員指名者」としての権限を行使するもの)が、理事会の懸念に対応し、なおかつコミュニティの支持も得られるものだという考えをまとめました。

この法的地位の問題以外に議論が盛んだったものとしては、「ストレステスト第18項」に関する議論が挙げられます。ストレステストとは、ICANNにおける危機的な状況をいくつか仮定した上で、その状況下において説明責任機構が機能するかを検証するために、提案に含められるものです。現在、理事会に対してはGAC助言を最大限尊重するように求められていますが、第18項では移管後にGAC内で助言を採択するためのコンセンサス要件が今よりも弱められ、適切ではない内容の助言がGAC内

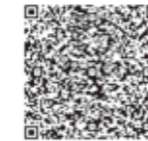
で採択されて理事会に提出される状況を仮定しています。これに対してCCWGは、付属定款にGACが助言を採択するための要件を規定する方向で改訂条項を提案していたのですが、GACは「そのような要件は付属定款で規定するのではなく、GAC自身の判断に委ねられるべき」などとしてこれに難色を示し、打開策がないまま会期を終了しました。

これらに関しては議論が継続され、最終提案に向けた詰めが行われています。

また、この事態によって、NTIAに対する意見提出までのスケジュールが後ろにずれ込むことになりました。8月の意見募集で公開された提案ドラフトから大きな変更がある場合、新たな意見募集を行わざるを得なくなり、さらに提出が遅れることとなります。本稿を執筆している2015年11月時点では、CCWGは意見募集を行わない程度の変更を前提に2016年1月の提案最終化をめざして作業を進めています。NTIAは、提案提出の遅れは歓迎しないものの、2016年1月までの提出であれば、対応可能という見解を示しています。いずれにしても、ぎりぎりのスケジュールとなっており、新たな問題の発生によってさらに提出が遅れる可能性もあるため、今後も注視が必要です。

本稿執筆時点でCCWGが示している今後のスケジュールは、次のURLでご覧いただけます。

CCWG-Accountability Working Session III - 22 Oct 2015  
6ページ「Potential Timeline」



<https://community.icann.org/pages/viewpage.action?pageId=56143880&preview=/56143880/56144212/CCWG-Accountability%20Working%20Session%20III%20-%202022%20Oct.pdf>

### 第44回ICANN報告会開催報告

ICANNダブリン会議を受け、恒例となっているICANN報告会を、Internet Week 2015の同時開催イベントとしてIAJapanとの共催で開催いたしました。本稿では、この第44回ICANN報告会の様子をご紹介します。

・日時: 2015年11月18日(水) 16:15~18:45  
・会場: 富士ソフト アキバプラザ  
・プログラム: (話者 敬称略)

第1部 ICANNの基礎 (40分)
1. ICANNに関するチュートリアル 一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター 山崎 信
第2部 ダブリン会議の動向 (70分)
2. ICANNダブリン会議概要報告 一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター 前村 昌紀

#### ◆ その他の議論

このように、今回のICANNダブリン会議は、IANA監督権限移管とICANNの説明責任機構強化の議論で盛り上がっていましたが、それ以外の検討も粛々と進んでいます。gTLD関連では、新gTLDプログラムの次のラウンドに向けた暫定課題報告書が示され、次のラウンドのポリシープロセスが始まろうとしています。また、個別の課題として、プロキシ・プライバシーサービス(レジストリデータベースへの代理登録、あるいは個人情報の非開示を行うもの)の認定、TLD Universal Acceptance<sup>\*4</sup>などのセッションが持たれました。

また、次のラウンドを意識して進められている、TLD空間における国際化ドメイン名(IDN)文字列生成ルール(Label Generation Rules, LGR)の検討も行われています。例えば、日本では「国」と「國」など、見た目は異なる文字でありながら意味的には同じものとして扱われる「異体字」と呼ばれる文字がありますが、これらは同じ文字を使っても、各国・地域ごとに扱いに差があります。このままではTLDにIDNを利用する際に支障が出るため、文字列生成に関するルールを作ろうとしています。今回のダブリン会合では、漢字圏のLGRに関する検討として、漢字を共有する中国語、韓国語、日本語生成パネルによるLGR制定に向けた調整が、引き続き行われました。

#### ◆ 次回のICANN会議

次回ICANN会議は、2016年3月5日(土)から10日(木)にかけて、モロッコのマラケシュで開催されます。

(JPNIC インターネット推進部 前村昌紀)

3. 新gTLDプログラムに関する動向 株式会社日本レジストリサービス 遠藤 淳
4. ICANN国コードドメイン名支持組織(ccNSO)関連報告 株式会社日本レジストリサービス 高松 百合
5. ICANN政府諮問委員会(GAC) 報告 総務省総合通信基盤局電気通信事業部データ通信課 菅田 洋一
第3部 ICANNを知ろう (35分)
6. アジア太平洋地域におけるICANNの活動 ICANN Kelvin Wong
7. 質疑セッション~ICANNについて何でも聞いてみよう~

#### ◆ ICANNに関するチュートリアル

今回初の試みとして、ICANNにあまりなじみのない方、報告会に興味はあるものの内容が難しいとお考えの方を対象に、

\*1 CCWG (Cross Community Working Group on Enhancing ICANN Accountability)  
ICANNの説明責任強化に関する提案検討を行う、複数のコミュニティにわたるWorkingグループです

\*2 [CCWG-ACCT] Message from ICANN Board re Designator Model  
ICANN理事会議長 Steve Crockerの、CCWGメーリングリストへの投稿  
<http://mm.icann.org/pipermail/accountability-cross-community/2015-October/006233.html>

\*3 ICG Completes its Work and Awaits Conclusion of CCWG on Enhancing ICANN Accountability  
<https://www.iana.org/igc-completes-its-work-and-awaits-conclusion-of-ccwg-on-enhancing-icann-accountability/>

\*4 TLD Universal Acceptance  
新gTLDプログラムにより大量に増えるIDNを含む見慣れない多様なドメイン名が、あまねく問題なく利用できる状況を作り出すために、利用者やソフトウェアベンダ、サービス事業者に働きかけを行う取り組みです

ICANNの基本情報に関するチュートリアルを会の冒頭に実施しました。アンケートをざっと拝見した限りでは、肯定的な反応が多かったようです。

◆ 会議の全体概要

JPNICの前村より、ダブリン会議の概要と主なトピックを報告しました。内容については前半の「第54回ICANNダブリン会議報告」で既にご紹介していますので、ここでは省略します。また、今回は年次会合ということで、理事が3名改選された(以下参照)ことについても触れられました。

- Ray Plzak氏→Ron da Silva氏(アドレス支持組織(ASO)選出)
- Gonzalo Navarro氏→Rafael Lito Ibarra氏(指名委員会選出)
- Wolfgang Kleinwachter氏→Lousewies Van der Laan氏(指名委員会選出)



● 第44回ICANN報告会の様子

◆ 新gTLD関連

JPRSの遠藤氏からは、新gTLDの委任数や登録数、文字列競合解決のためのオークションなど新gTLDプログラムの最新状況、日本から申請された新gTLDの状況、および次回のgTLD募集に向けた動きについて、それぞれご報告いただきました。また、総務省の菅田氏からは、GACの動向として消費者保護の観点からGACが行っているセーフガード助言に関する動きや、国際機関や地理的名称の保護に関する助言の検討状況についてご紹介いただきました。

◆ 各組織の動向

JPRSの高松氏よりccNSOの動向として、市場動向や登録者情報の正確性確認、IANA監督権限移管およびICANNの説明責任向上等について情報共有がなされたこと等をご紹介いただきました。また、総務省の菅田氏からは、GAC内の動向をご報告いただきました。CCWGが提案したメカニズムのうちGACの助言に関するストレステスト第18項について意見が分かれ、GACが担う役割の維持などの原則については一致したものの、具体的な見解は継続検討となったとのことでした。

ICANNのKelvin Wong氏からは、ダブリン会議中に開催されたAPAC

スペース、およびICANNが進めている市民社会エンゲージメント計画について主に紹介いただきました。

◆ 質疑セッション  
～ICANNについて何でも聞いてみよう～

この2年ほど、ICANN報告会では最後のプログラムとして、IANA監督権限移管とICANNの説明責任向上についてのパネルディスカッションを実施してきましたが、今回の報告会はInternet Weekの同時開催イベントとしたことから、初参加の方でもICANNに関することを何でも気軽に質問でき、議論ができるようなセッションとしたいという思いがありました。そこで、最後に、ICANNスタッフに直接質問できる時間を設けました。

Wong氏の発表からそのまま質疑セッションに移り、次のような質問が参加者よりありました。

- 新gTLDが既存のgTLDと同様に問題なく使えるようにする活動であるUniversal Acceptanceについての期待
- 迷惑メール対策および新gTLDの(迷惑メールの発信などではなく)健全な利用について議論できる場が欲しい

後者のうち、新gTLDの健全な利用については、本報告会開催時にちょうど意見募集が行われているところでした。意見募集に関連して、今後の報告会では、報告会開催時点でのICANNからの意見募集一覧を共有するとよいのではないかとというコメントもありました。このコメントに対しては、JPNICとしても検討したいと思えます。

今回のICANN報告会の各発表資料は、次のURLにてご覧いただけます。

第44回ICANN報告会 資料  
<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/icann-report/20151118-ICANN/>

(JPNIC インターネット推進部 山崎信)



● 今回は初の試みとしてICANNに関するチュートリアルを実施しました

第29回JPNICオープンポリシーミーティング報告

2015年11月17日(火)に、富士ソフト アキバプラザにて、Internet Week 2015の同時開催イベントとして第29回JPNICオープンポリシーミーティング(JPOPM)を開催いたしました。今回は番号資源の管理ポリシーに関する提案はなく、6件の情報提供がありました。ミーティングには、オンサイトで約30名(関係者含まず)の皆さまに参加いただきました。ストリーミングにおいては、ユニークなアクセス数は31、平均で10人前後のアクセスがありました。以下、いくつかのトピックスについて報告します。

◆ JPNICにおけるポリシー実装状況報告

前回のJPOPMでは、番号資源管理ポリシーの変更を伴う提案がなかったため、実装についての報告はありませんでしたが、前々回のJPOPM27での提案「(027-01) JPNICにおけるアドレス移転支援について」の議論を経て組成された作業グループによる検討の結果、実施することとなった「移転希望者リストサービス」の準備状況、そして各種統計情報の報告が行われました。統計情報では「JPNICに返却済みIPv4アドレスからの割り振り」「AS番号移転」「IPv6アドレス分配動向」「IPv4アドレス移転件数の推移」等についてJPNICから報告がありました。割り振りの件数等、情報の詳細については、当日発表の資料をご参照ください。

第29回JPNICオープンポリシーミーティングプログラム  
<http://www.jpocf.net/JPOPM29Program>

◆ 意見交換セッション

このセッションは、他のポリシーフォーラムにおいて議論されているトピックや、ポリシーの提案を検討している過程でコミュニティに意見を求めることを目的とした、発表、質疑応答、議論で構成されたセッションです。初めての試みですが、今回は二つの意見交換セッションを実施しました。

一つ目は、APNICのポリシーフォーラムで今後議論される可能性のある提案についてです。これは前回のAPNICのポリシーフォーラム(Policy-SIG)でチェアから「今回は議論を実施しなかったが、現在準備が進められている新しい提案がある」という趣旨の発言と、その準備中の提案の概要について説明がありました。セッションでは今後議論する可能性のある提案の内容を、その発言から想像できる範囲において整理して、意見交換を実施しました。もう一つは、話者が今後APNICのポリシーフォーラムに対して提案を検討している内容について、JPコミュニティに意見を求めることを目的に、意見交換を行いました。

いずれも具体的な内容については、次のURLから当日発表の資料、議事録、録音等をご参照ください。

第29回JPNICオープンポリシー  
ミーティングプログラム  
<http://www.jpocf.net/JPOPM29Program>



その他、現状の日本におけるポリシー策定プロセス(PDP)の解説、APNIC 40カンファレンス参加報告、番号資源におけるIANA機能の監督権限移管に関する状況のアップデート、ASO AC (Address Supporting Organization Address Council; アドレス支持組織評議会)の活動について、APNIC 40/APRICOT 2016参加支援プログラムについて、オープンマイク等のセッションを開催しました。

◆ ミーティングを振り返って

今回、初めて意見交換セッションを実施しました。いずれも発表は筆者が行いましたが、参加者の皆さまと共に良い意見交換の時間を持てたと感じました。多くの意見をいただき感謝申し上げます。意見交換の対象となる内容が、想像の範囲を出ないものであったり、検討過程の提案に基づくものであるため、発表や議論のファシリテーションが不十分に感じられた方もおられたかもしれません。おわび申し上げます。

このセッションは、次回のAPNIC Policy-Sigセッションに備えた意見収集の代わりになるものではありませんが、予想できる内容であるとはいえ、あらかじめ情報を知り議論しておくことで、実際の提案が出て来た時に備える一助になればと考えています。そして、今後、提案が出て来た時に日本のコミュニティからのインプットが積極的に行われることも期待しています。次回以降もトピックを探して、意見交換セッションを実施できればと考えていますので、興味のあるトピックをお持ちの方がいればぜひ、発表募集に応募いただければ嬉しいです。



● JPNICにおけるポリシー実装状況も報告しました

◆ APNIC 41カンファレンスについて

次回のAPNIC 41カンファレンスは、ニュージーランドで下記の日程にて開催されます。

開催地 ニュージーランド・オークランド  
 開催期間 2016年2月15日(月)～26日(金)  
<https://conference.apnic.net/41>

◆ 第30回JPNICオープンポリシーミーティングについて

今回のJPOPIMは、2016年7月をめぐりに開催を予定しております。詳細が確定し次第、こちらについてもIP-USERSメーリングリストにてお知らせいたします。最後になりますが、オンサイト、リモートともにご参加および発言いただいた皆さま、ご発表いただいた皆さま、ありがとうございました。

今回のミーティングでも、アドレスポリシーに関してご意見をお持ちの方の提案や、プレゼンテーションのご応募をお待

ちしています。今回ご参加いただけなかった方も、ぜひともご参加ください。

(ポリシーワーキンググループ/グリー株式会社 橋俊男)



● 当日の議論の様子

第57回JPNIC臨時総会、講演会の報告

2015年12月11日(金)、第57回JPNIC総会(臨時総会)を東京都千代田区のアーバンネット神田カンファレンスにて開催いたしました。今回の総会では、2015年度補正予算案を、会員の皆様にお諮りしました。その模様を簡単にご報告します。

◆ 理事長挨拶、その他

総会の開会に先立って理事長の後藤より、会員の皆様からのご協力のもと、2015年11月17日～20日にかけて開催されたInternet Week 2015は今年も多く参加者を得て、例年通り盛況であった旨が伝えられました。その後、議長選任、議事録署名人指名の後、審議事項の説明を行いました。



● 総会の様子

◆ 第1号議案: 2015年度補正予算案承認の件

本議案は、本年2015年3月20日(金)に開催の第55回臨時総会※1

にて承認された、2015年期首の収支予算に変更が生じたため、現在までの実績と今後の見込みを反映した損益を見直した補正後の予算額についてお諮りしたものです。変更となる経常収益、費用などについて事務局長の林が説明を行いました。

議案の説明に引き続き議場に質疑を求めましたが、質疑は無く、その後当議案の賛否を会場にお諮りした結果、原案の通り可決されました。

経常収益予算 507,770,000円(当初予算比 +3,680,000円)  
 経常費用予算 535,530,000円(当初予算比 +5,910,000円)

最後に後藤理事長より、「補正予算は毎年度12月の総会でお諮りしているが、ここ数年、決算の状況は安定的であり、期首予算の急激な変動が無い限り、補正予算をお諮りする必要性は低いと考えられる。しかし、総会は会員の権利として議決権行使を行える場でもあるので、来年春の総会までに補正予算作成を行うか否か検討し、報告したい」という趣旨の発言がありました。これをもって、総会は閉会となりました。

◆ JPNICアップデート

総会に引き続いて、JPNICアップデートと題し、今年度の事業や出来事の中から、会員の皆様へいくつかのトピックスをお伝えいたしました。

IP事業部からは、IPアドレス関連の話題として、2013年9月に導入したプロバイダ非依存(PI)アドレス・AS番号ホルダへの電子証明書更新の件やARINのIPv4アドレス通常在庫枯渇に関する話題、2015年10月1日より開始されたRIPE NCCとのIPv4アドレス移転のお話やIPv4アドレス移転希望者リストの提供開始についてお伝えしました。また、ルーティング関連の話題として、RPKIシステムの試験提供の件、さらに、11月9日より開始された逆引きDNSへのDNSSEC導入に関して説明が行われ、両システムともにご登録をお待ちしている旨が伝えられました。

インターネット推進部からは、「2015年のインターネットガバナンスの動向」と、2013年10月から追加が始まり、2年が経過する「新gTLDの最新動向」の2点を中心とした話がありました。まずインターネットガバナンスが直面する課題について全体像を解説し、WSIS+10やIGF等、2015年の国際的なインターネットガバナンスに関する動向と最新情報をお伝えしました。また新gTLDに関して、その委任状況や国別の登録数内訳等の最新情報をお伝えしました。加えて、7月より開始したJPNICブログとAPRICOT-APAN 2015日本実行委員会が行っている国際会議支援プログラムについて紹介しました。

最後に、会員特典について、現行の会員特典および新規に追加する特典を紹介しました。今回追加される特典は、JPNICの講師がご希望の場所へお伺いし、全部で八つあるラインナップの内、ご希望のプログラムのセミナーを開催するという特典です。受付開始は2016年1月1日から行い、実際のサービス開始は2016年4月1日開始と予定している旨をお伝えいたしました。その後、予定通り4月1日開始ということで、2016年1月4日から予約受付を開始しております。既存の会員特典および今回追加される特典についても、会員の皆様へぜひご活用いただければ幸いです。詳しくはP.56の「～JPNIC正会員限定 出張セミナー開始のお知らせ～」をご覧ください。



● 会員限定出張セミナーのイメージ(写真は技術セミナーの様子)

◆ 総会講演会:

「IoT(生活機器)のハッキングの現状と今後」

JPNICアップデートの後、休憩を挟み、恒例の講演会が行われました。今回は「IoT(生活機器)のハッキングの現状と今後」と題し、JPNICの理事でもある、重要生活機器連携セキュリティ協議会事務局長の伊藤公祐氏にご講演いただきました。

昨今の報道等においても明らかな通り、IoTの世界は今後さらなる拡大が予想されます。しかしながら、モノ同士が通信し合う管理者不在のネットワークが増えると、セキュリティの面ではさまざまな脅威が生じる可能性があります。



● 伊藤公祐氏よりIoTのセキュリティについてご講演いただきました

本講演では、IoTシステムへの攻撃の実例や傾向等の研究について紹介され、世界的に組織されているさまざまなWGにおける、IoTセキュリティの標準化動向や日本における取り組みが紹介されました。まとめとして、IoTでは、ネットワークやクラウドのセキュリティの課題、そして端末メーカーの実装の問題によるセキュリティの課題と、分野の違うセキュリティが混在してくるが、IoTのセキュリティを今後強化していくためには、分野間の垣根を越えて、各分野の人間が相互に情報交換や議論していくことが重要であり、今後の課題であると締めくくられました。

この第57回総会の資料・議事録は、JPNIC Webサイトにて公開しておりますので、あわせてご覧ください。講演会の資料およびビデオについても、同様に公開しております。

- ◆ 第57回総会(臨時総会)資料・議事録  
<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/general-meeting/20151211/>
- ◆ 総会講演会「IoT(生活機器)のハッキングの現状と今後」  
<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/after/20151211/>

(JPNIC 総務部 手島聖太)

※1 第55回総会(臨時総会)資料・議事録  
<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/general-meeting/20150320/>